

# 遺跡を記録する

遺跡とは、広辞苑第六版による

と、「①過去の人類がのこした遺構もしくは遺物のある所。貝塚・住居跡・古墳など。旧跡。古跡。」ということ、一昔前までは、旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良時代・平安時代を調査および研究対象として考古学的な発掘調査が行なわれ、それに伴う新発見に驚いたものでした。近年では、福井市の一乗谷朝倉氏館や広島県福山市の草戸千軒遺跡(門前市場町跡)などのような中世の遺跡も調査対象として広がっており、さらに今では近代化産業遺跡や戦争遺跡なども加わって、その対象が大きく増えていく傾向にあります。

高島市教育委員会では平成20年3月に『高島市遺跡地図』を発行しました。そこには縄文時代から江戸時代を中心に、市内364遺跡が登録されています。皆さんの中にも図書館や公民館・各地区の集会所などで、見られた方もあ

うかと思えます。

この春、3月19日、マキノ町海津峯山に所在する峯観音堂遺跡を、有志の方々と踏査する機会に恵まれました。峯観音は古代、養老6年(722)、越の国の大徳泰澄が、北陸から北近江に入り山岳仏教をこの地に広めたことから始まり、峯山に観音堂を建立し、栢の霊木から造られた観音像を納めた古刹であると伝えられています。

踏査は、海津大崎寺手前から山道を登り通称七曲りを上り、一時間ほどで式内社の大前神社に到達しました。そこからさらに登り、一時間ほどで仁王門跡に着き、さらに北へ200mほど進むと目指す観音堂跡に到着できました。当日は、雪がまだ一面に残ってましたが、奥琵琶湖や竹生島をはじめ湖北を一望できるロケーションでした。観音堂跡・大師堂跡・庫裏跡は峯山の東側を切土とし、北西に対して屏風状に稜線を残してい



大前神社

ました。峯観音堂跡で昼食を取り、さらに稜線を北に進み、その後は西に進路をとって無事下山しました。

後で聞くと、この山には熊が生息しており、実際に目撃情報もあるということなので、単独行は危険を伴いますから決してお勧めはできません。

少し前までの遺跡分布踏査では、二万五千分の一の地図に現在地を示しながら進んだものですが、今では小型のGPS機能を有するレコーダーで解析することによって、足跡を明確に復元することができ、遺跡の場所や到達するまでのルートについて、正確な資



峯観音堂跡

料作成が可能となりました。今後もこのような機会を大いに利用して、遺跡を記録することに努めていきたいと思えます。

閩文化財課  
☎(32) 4467

## 編集感

▼表紙は、マキノ中学2年生が行った「校歌の地探訪」と題した課外授業のようす。これまで徒歩で校歌ゆかりの海津大崎へ向かいましたが、今回初めてカメラでの探訪に挑戦。慣れないパドルさばきに苦戦する子もいましたが、無事に大崎寺近くの浜に到着し、校歌を歌われました。湖上から満開の桜並木を愛でながら漕ぐ姿は大変気持ちよさそうでした。▼今月号からロゴデザインを新しくし、市長雑記コーナーをはじめました。ぜひご覧ください。(S)

広報たかしま

平成25年

5

月号

No.160

発行▼高島市

編集▼政策部企画広報課  
滋賀県高島市新旭町北畑5のの番地

☎0740(25)8000(代)

http://www.city.takashima.shiga.jp  
t:info@city.takashima.shiga.jp

